

□市長と語ろうまちづくりでの質問

災害時に自分たちはどうしたらいいのか、防災対策の現状など、参加者からの質問の一部を紹介します。



▲回答する針谷市長

**Q** 東日本大震災では、余震で倒壊した避難所があったようだが、市内の避難所は大丈夫なのか？

**A** 避難所・避難場所は全て耐震診断、耐震工事が終わっています。大きな地震の場合は、応急危険度判定士が、避難所の安全を確認します。

**Q** 平成27年の豪雨の際に避難をしようとしたら道路が冠水して行くことができなかった。道路の冠水対策は大丈夫なのか？

**A** 全ての道路を整備することはできないので、ハザードマップの冠水箇所を避けて避難してください。

□洪水時の避難行動

台風などの上陸により河川堤防の決壊を想定したタイムライン。体が不自由・避難所まで遠い・浸水域に住んでいるなど、自身の状況に合わせたマイタイムラインを考えてみましょう。



姉妹都市 福井県大野市と災害時連携

ホームページで災害情報を代理掲載

平成25年11月に姉妹都市である福井県大野市と「姉妹都市の災害時における行政情報に関する覚書」を取り交わしました。古河市が被災し、市ホームページで情報を発信することができなくなった場合には、災害情報などが大野市のホームページに代理掲載されます。

いつ起こるか分からない災害に備えるために、大野市のホームページを「お気に入り」や「ブックマーク」に登録するなど、被災時に閲覧できる準備をお願いします。

【問】 秘書広報課 Tel.92-3111



**洪水時の避難行動について**

市では、洪水時の避難情報を気象情報や河川の水位等を勘案しながら、原則、段階的に発令します。そこで、市民の皆さんには、発令される避難情報を基に、自分はそのように避難したいのかを考えていただきたいと思っています。

避難に支援が必要なのか、避難先への距離が遠いのか、あるいは移動手段は徒歩なのか車なのかなど、安全に避難できるタイミングは人それぞれです。

洪水時の避難行動として、逃げ遅れないことが大切であり、自分なりに余裕を持って安全に避難できる行動計画、いわゆる「マイタイムライン」を考えていくことが大変重要となります。

**私は大丈夫とってしまう怖さ**

身の周りで被害が起きていない場合、人は災害の危険性を過小評価して、自身の危険として受け止めない習性があるようです。

「そんなことが起こるはずはない」「前回は大丈夫だった」「周りの人が逃げていないから大丈夫」など、心の中で「自分は大丈夫である

こと」の理由を探してしまうようです。

こうした習性が、洪水時においては逃げ遅れにつながってしまいます。「まさかこんなことになるとは思わなかった」という被災者の話は、7月の西日本豪雨でも多く聞かれました。

避難行動をとる際には、こうした人間の習性を自分の弱点として理解し、これを克服していくことが肝心です。

**災害に強いまちづくりに向けて**

最後に、自然災害は必ず起こるという前提で、日頃から備える必要があります。たとえ災害が起こったとしても、被害を最小限にするための取り組みが大切です。その際は、行政の力だけでは住民の安心安全を十分に確保できないのが過去の教訓から明らかになっています。

市民の皆さんには、「自分の命や自分のまちは自分たちで守る」それが地域の安全にもつながることを、ご理解いただきたいと思います。そして、皆さんの「自助・共助の力」を高め、行政の公助と連携を取り、災害に強いまちづくりを一緒に進めていきましょう。